

中学校 社会

中学校社会科の地理的分野において、地域社会の形成に
参画しようとする意欲を高めるための指導法の研究
—身近な地域「金木町」の調査を通して—

五所川原市立金木中学校 教諭 白取 博士

要 旨

本研究は、中学校社会科地理的分野の身近な地域の調査において、地域の地形図を用いた学習活動や、地域に関わる観光等の統計資料の分析活動を基にした観光客や地域の方々への聞き取り調査活動が、地域社会の形成に参画しようとする意欲を高めるために有効であることを、実践を通して明らかにするものである。その結果、地域社会に対して多面的・多角的な見方ができるようになり思考が広がったこと、社会参画への意欲が高まったことを示す変容が見られた。

キーワード：中学校 社会 地理的分野 身近な地域の調査 社会参画 聞き取り調査活動

I 主題設定の理由

中学校学習指導要領(平成20年3月告示)の地理的分野の目標及び内容では、身近な地域の調査について、次のように示されている。目標(4)では「地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる」、内容(2)日本の様々な地域 エでは「身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めて地域の課題を見だし、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度を養う…」と述べられている。

本校生徒は、芦野公園の桜祭りなど地域の行事に参加し、自分なりに金木町の魅力を捉えているが、地域社会の現状や課題についての理解は十分とは言えず、社会参画への意欲も低いままである。そこで、2学年地理的分野では、金木町の地形図を活用した学習活動、観光等の統計資料の分析活動から地域の魅力や課題を捉えた上で、観光客や地域の方々への聞き取り調査活動を通して金木町の在り方を考えることが、地域社会に対する課題意識の深まりや社会参画への意欲向上につながると考え、本主題を設定した。

II 研究目標

中学校社会科地理的分野の身近な地域の調査において、地域の課題を見だし、地域社会の形成に参画しようとする意欲を高めるために、地域の地形図を用いた学習活動や、地域に関わる観光等の統計資料の分析活動及び地域の方々や観光客への聞き取り調査活動が有効であることを、実践を通して明らかにする。

III 研究仮説

中学校社会科地理的分野の身近な地域の調査において、地域の地形図を用いた学習活動や、観光等の統計資料の分析活動及び地域の方々や観光客への聞き取り調査活動を行うことで、地域の課題に対する意識が深まり、地域社会の形成に参画しようとする意欲が高まるであろう。

IV 研究の実際とその考察

1 研究における基本的な考え方

(1) 「社会参画への意欲の高まり」について

中学校学習指導要領解説社会編第1章総則 3 社会科改訂の要点(2)各分野の改訂の要点〔地理的分野〕

カ 社会参画の視点を取り入れた身近な地域の調査では「…社会参画の態度を養うことは、社会科の究極の目標である公民的資質の基礎を養う意味からも大切であり、地理的分野の学習において生徒が生活している地域に対する理解と関心を深め、その発展に努力しようとする態度を育てることを重視する必要がある」と述べられている。

参画とは「計画に加わる」という意味であり、社会参画とは「社会形成の計画に参加すること」を意味する。つまり、社会参画への意欲が高まった状態とは、単に地域社会の行事や祭りなどに参加することだけを意味するのではなく、地域社会の魅力や課題に目を向け、地域社会に対する理解を深め、そして地域社会が抱える課題を解決するための取組に意欲的になることと考えている。

本研究では、身近な地域「金木町」の調査を通して、地域の魅力や課題に向き合い、観光客や地域の方々の意見を参考にしながら地域活性化のための提案を自ら考える学習活動を展開することで、社会「参加」から社会「参画」に意識・意欲を高めることができると考える。

(2) 聞き取り調査活動の利点について

生徒の生活経験から地域の魅力や課題を捉え、課題解決のために考えをまとめることは可能だと考えられるが、思考の広がりや深まりは未知数である。思考の広がりや深まりのためには様々な視点から地域の魅力や課題を捉えた意見に触れることが必要で、その手段として本研究では聞き取り調査活動を重視する。

加賀（2010）は聞き取り調査の利点について、「地域の人との交流が生徒にとって刺激となり、新たな発見が生まれ、様々なことを考える契機となり、さらには調査による社会認識の形成だけにとどまらず、市民的資質の育成、社会参画の意欲や態度の向上へと結び付く」と述べている。

本研究で実施する、地域商店街の方々、公民館・消防署・警察署・市役所など公的な機関の方々、農協・郵便局・銀行など金融機関の方々、各店舗を利用している地域の方々、斜陽館や津軽三味線会館などの観光施設を運営しているかなぎ元気倶楽部の方々のほかに、県内外からの観光客など幅広い対象への聞き取り調査活動が、生徒の思考の広がりや深まり、さらには社会参画の意欲の向上に有効であると考えられる。

2 研究の実際

(1) 単元名 第2編 日本のさまざまな地域 第4章 身近な地域の調査（東京書籍）

(2) 単元について

本単元で取り上げる五所川原市金木町は市中心部から10km以上離れており、小規模ながら独自の経済圏・文化圏を維持している地域である。桜の名所芦野公園、太宰治の生家斜陽館、津軽三味線の演奏が聴ける津軽三味線会館など多くの観光施設があり、観光の町金木として県内外に広く認識されている。

身近な地域「金木町」の調査では、自分たちの生活経験から考えた金木町の魅力や課題と、聞き取り調査活動で得られた観光客や地域の方々が考える金木町の魅力や課題を比較し、その魅力や課題について再考する。次に、金木町魅力を広め、課題を解決するための地域活性化の提案を話し合うことで、地域社会の形成に参画し、その発展に努力しようとする意欲を向上させたいと考える。

(3) 単元の計画（9時間）

時	題材名	おもな学習活動	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
1	地形図学習	・地形図（金木町）の読図	○		◎	○
2	金木町の観光	・観光統計資料の読み取り	○	○	◎	
3	金木町の魅力と課題の発見	・生活経験をもとにした金木町の魅力と課題を見付ける	◎	○		
4	聞き取り調査	・観光客や地域の方々への聞き取り調査	◎	○		
5	【現地調査活動】					
6	聞き取り調査結果の集計・分析	・聞き取り調査結果の集計・分析		○	◎	
7	金木町の魅力と課題の再考	・聞き取り調査結果を参考にした金木町の魅力と課題の再考		◎	○	
8	地域活性化の提案【検証授業】	・調査結果を参考にした地域活性化のための提案の立案		◎	○	
9	各班の提案の共有	・発表・質疑応答 ・事後アンケートの実施	○	○		◎

(4) 本時の学習

ア 題材名 「地域活性化のための提案を考えよう」(本時8/9)

イ 本時の目標

聞き取り調査結果を参考にして、「金木町の魅力」「金木町の課題」「地域活性化を目指した私たちの提案」という三つの視点で考えをまとめることができる。 【社会的な思考・判断・表現】

ウ 本時の展開

	活動内容	予想される生徒の反応	◎評価 △留意点
導 入	1 前時までの振り返り ◇これまでの学習を振り返る。	◇指名により、授業プリントを確認しながら発表する。	△授業プリントを活用させる。
展 開	2 学習課題の提示 金木町の魅力・課題を再検討し、地域活性化のための私たちの提案を考えよう。		
	3 今日の活動手順の説明 4 作業・話し合い ◇調査結果を共有するための取材を行う。 ◇各班で魅力と課題を再検討し、地域活性化のための私たちの提案を話し合う。 ◇発表資料づくりを行う。	◇活動手順の疑問点を質問する。 ◇説明担当者は、調査結果のポイントを取材担当者に説明する。 ◇地域の方々や観光客の意見を参考に魅力と課題を再検討し、私たちの提案を話し合う。 ◇役割分担を決め、発表資料を作る。	△取材内容を話し合いに活用させる。 ◎評価 プリント記述、発表資料、話し合い観察
ま と め	5 発表(報告) ◇各班の進行状況の発表を行う。	◇班長が現在の進行状況を発表する。	

3 考察

(1) 社会参画への意欲の高まり

本単元の事前・事後に対象学級に行った「社会科の意識調査」と題したアンケート結果から社会参画への意欲の高まりについて分析する。

①地域イベントへの参加意欲

図1は「桜祭り期間に芦野公園の美化活動に参加したいか」という設問で、地域イベント(桜祭り)への参加意欲の高さを調査したものである。事前調査では不参加傾向の生徒が合わせて20名だったのに対して、事後調査では参加傾向の生徒が合わせて21名となり逆に半数を超えた。表1の回答理由では、事後の理由において、観光客や社会全体を意識した理由が増えてきたことが読み取れる。以上のことから、本単元の学習が地域イベント(桜祭り)への参加意欲の向上につながったことが読み取れる結果となった。

②地域の広報誌への関心

図2は「五所川原市の広報ごしょがわらを読んでいるか」という設問で、地域の広報誌への関心の高さを調査したものである。事前事後と

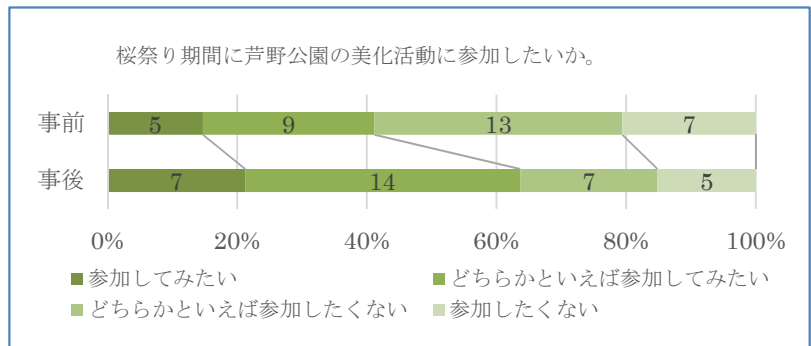


図1 地域イベントへの参加意欲 (対象～事後1名減)

表1 図1の回答理由

理由	時期	理由
積極的 理由	事前	・いろんなボランティアに参加したい ・おもしろそう ・人の役に立ちたい ・ルールを守って楽しみたい ・自分も汚いとガッカリする ・良い経験になる
	事後	・ボランティアが好き ・観光客に心から喜んでもらいたい ・観光客にきれいな公園をみてほしい ・多くの人に来てほしい ・きれいな桜をたくさんの人に見てほしい ・ゴミを減らしたい ・社会の役に立ちたい ・きれいな方が気持ちいい
消極的 理由	事前	・めんどろ ・むずかしい ・緊張する ・一人一人が気を付けるべき ・自分に向いていない ・ボランティアよりやりたいことが優先
	事後	・めんどろ ・大変そう ・緊張する ・人にかまられそう ・つかれる ・どうせまた汚す人がいる ・やりたいことをやっていたい

もに「読んでいる」「時々読んでいる」という生徒は6名と少ないままである。これは内容が中学生にはやや難しいため仕方がないと思われるが、「何度か読んだことがある」が事後に7名増えた。これは本単元の学習後に地域の広報誌を手にとった生徒が7名増えたことを意味し、地域の広報誌に記載されている地域社会への関心の高まりに本単元の学習が少なからず作用したのかもしれない。

③地域政治への参加意欲

図3は「中学生の考えを市長に伝える場に参加したいか」という設問で、地域政治への参加意欲の高さを調査したものである。参加傾向の生徒は事前事後同数の21名であったが、5名の生徒が「どちらかといえば参加してみたい」から「参加してみたい」に変わり、地域政治への参加意欲が高まった生徒が増えた。表2の回答理由では、事後の理由において、金木町のゆるキャラ案などの具体的な提案や、自分の考えを伝えるだけでなく市長の考えを知りたいという、より積極的な理由が増えてきた。以上のことから、本単元の学習が、地域政治への参加意欲つまり地域社会を形成する計画に参加したいという社会参画への意欲の向上につながったことが読み取れる結果となった。

(2) 聞き取り調査活動の利点

①聞き取り調査活動のインパクト

表3は本単元の学習後に「印象に残った学習場面を三つ選んでください」という設問で対象学級に行ったアンケート結果である。本単元の学習場面の中で「聞き取り調査活動」を選んだ生徒は33名中32名いた。選ばなかった1名は調査活動当日欠席した生徒であり、実際に調査活動に参加した生徒100%が「聞き取り調査活動」を選んだことになる。また、選んだ理由としては「地域ならではの課題や魅力が聞けて良かった」「自分たちと違った目線からの魅力や課題がたくさん出てきて、より広く金木町のことを知ることができた」などの内容があり、単に校外で

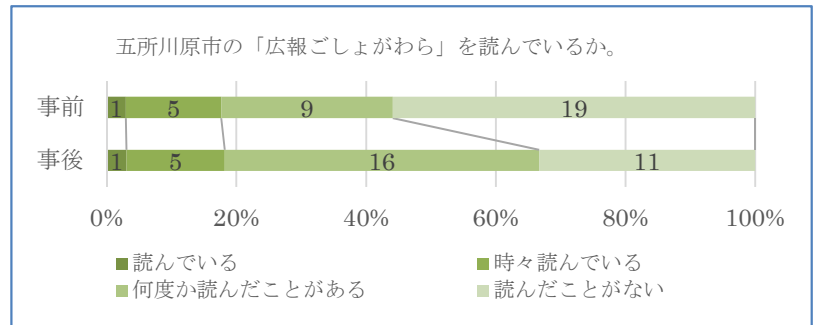


図2 地域の広報誌への関心 (対象～事後1名減)

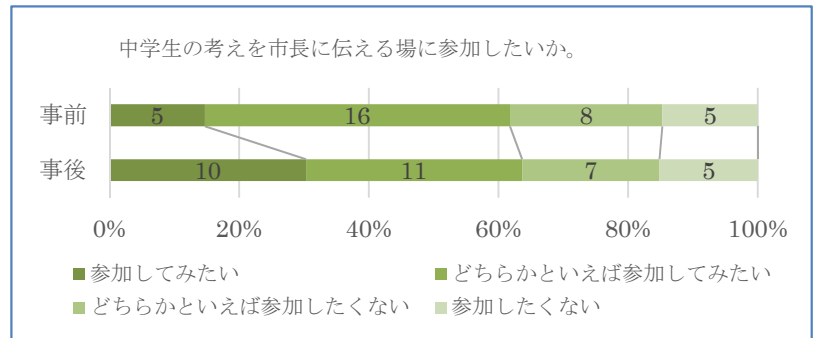


図3 地域政治への参加意欲 (対象～事後1名減)

表2 図3の回答理由

理由	事前	事後
	積極的 理由	<ul style="list-style-type: none"> 自分の要望を伝えたい 中学生の考えを大人に知ってもらいたい 金木を今より良くしたい 金木の良いところを教えたい
消極的 理由	<ul style="list-style-type: none"> 考えがない よくわからない めんどう 	<ul style="list-style-type: none"> 人前に出たくない 緊張する めんどう 中学生の意見なんか真剣に聞いてもらえるとは思わない そこまでの意見を持っていない

表3 印象に残った学習場面

順位	学習場面	人数
1	「地形図学習」 ・金木地区の地形図を使い、読図の基本を学習した。	7 / 33名
2	「金木町の観光」 ・青森県の観光統計資料で金木町の観光の現状を読み取った。	9 / 33名
3	「金木町の魅力と課題を考える①」 ・自分たちの生活経験から金木町の魅力と課題を考えた。	8 / 33名
4	「地域の聞き取り調査」 ・地域の方々や観光客の方々に金木町の魅力と課題を聞き取り調査した。	32 / 33名
5	「聞き取り調査の分析」 ・聞き取り調査の結果を集計・分析した。	12 / 33名
6	「金木町の魅力と課題を考える②」 ・聞き取り調査の結果を参考にして、金木町の魅力と課題を再考した。	7 / 33名
7	「私たちの提案を考える」 ・再考した金木町の魅力と課題をもとにして、地域活性化の提案を考えた。	13 / 33名
8	「発表資料作り」 ・これまでの考察内容を発表資料にまとめた。	11 / 33名

の活動が楽しいためだけでなく、調査結果が学習に役立つことを理由に挙げていたことが意義深い。

②聞き取り調査活動と思考の広がり・深まり

本単元の調査活動を、対象学級は「聞き取り調査活動」、比較学級は「パソコンでの調査活動」とした。この二つの学級の比較から、聞き取り調査活動の利点を考える。

表4は対象学級と比較学級の各班が考えた「地域活性化のための私たちの提案」を表したものである。比較学級は、自分たちの生活経験から考えた金木町の魅力と課題と、「パソコンでの調査活動」後に再考した金木町の魅力と課題にあまり変化がなく、その結果導き出した「私たちの提案」の内容は、ゴミ拾いなど自分たちの生活経験から考えた課題に関したものが多く、思考の広がりや深まりがあまり見られなかった。その一方で、対象学級は、自分たちの生活経験から考えた金木町の魅力と課題と、「地域の聞き取り調査活動」後に再考した金木町の魅力と課題に大きな変化が見られ、その結果、観光客の視点から捉えた金木町の魅力を伸ばすという方向性の提案が多くなるなど、思考の広がりが見られるようになった。以上のことから、聞き取り調査活動で多様な考えに触れ、多面的・多角的な見方ができるようになり、生徒自身の思考の広がりや深まりに役立つと言える結果となった。

表4 地域活性化のための私たちの提案

	【 対象学級 】	【 比較学級 】
1班	<ul style="list-style-type: none"> 金木の名所を生かしたPR活動をすすめる。 空き家を利用した宿泊施設をつくる。 観光施設を増やすなど、若い人が働く場所を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 祭りの時にゴミ箱を増やす。 自然を守るために、クリーン作戦などを行う。 若い人が好きそうなものをアピールする。
2班	<ul style="list-style-type: none"> 観光客がきれいな町を歩くために、金木小学校と金木中学校が協力して月1回ボランティア清掃をやる。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミのポイ捨て対策として看板を立てる。 金木町商店街を太宰治をテーマにしたモール街に改造する。
3班	<ul style="list-style-type: none"> 古民家再生に取り組み、宿泊施設を増やす。 働く場所を確保し、活気ある町にするために、商店街を復活させる。 金木町をアピールできる伝統工芸品や観光グッズなどを開発する。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光客が来ても不愉快にならないようにゴミを拾う。 偉人や祭りのパンフレットを出す。
4班	<ul style="list-style-type: none"> 三味線の町としてもっとPRする。 季節ごとのイベントを増やす。 空き家を新しい店として再利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 雪が多い地域なので豪雪対策を考える。 高齢化が進んでいるので地域医療の確保を図る。
5班	<ul style="list-style-type: none"> 観光客が泊まれる斜陽館風の公共宿泊施設を建てる。 金木町を連想できるキャラクター(例:ダザイクン)をつくり、全国に金木町をもっとPRする。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミのポイ捨てを減らすためにゴミ箱を設置する。 観光客を増やすために宿泊施設を増やす。
6班	<ul style="list-style-type: none"> 観光客が少ないから宿泊施設が少ないのか、宿泊施設が少ないから観光客が少ないのか、どちらなのかを突きとめ、その対策を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光客を増やすために、今の五所川原市のホームページを改良工夫する。

(3) 学力の向上

①「聞き取り調査活動」の学習効果

表5は本単元の学習後に実施した2学期期末試験のうち、身近な地域の調査に関連した試験結果に聞き取り調査活動の経験がどの程度影響したのかを表したものである。

まず、「身近な地域の調査」部分の平均点を比べると、対象学級は、比較学級の15.1点を上回る15.9点を記録した。次に、「聞き取り調査」が正答となる問題で比べると、比較学級の正答者が10名だったのに対して対象学級の正答者は22名と倍以上になった。これまでの試験では比較学級の方が高い平均点を記録することが多かったことを考えると、聞き取り調査活動の経験が学習意欲の向上や学力の定着に効果があったと言える結果となった。

②「地域教材」の学習効果

表6は本単元の学習後に実施した2学期期末試験のうち、身近な地域の調査に関連した試験結果に「地域教材」の活用がどの程度影響したかを表したものである。まず、「地形図読図の問題」部分の正答率は対象学級が81%、比較学級が79%で、学年平均が70点だったことを考えると高い結果と言える。試験問題の地形図は他県のものを使ったにも関わらず、授業で金木地区の地

表5 2学期期末試験結果①(両学級とも受験者は32名)

	対象学級	比較学級
「身近な地域の調査」部分の平均点(満点19点)	15.9点	15.1点
解答「聞き取り調査」の正答者数	22/32名	10/32名

表6 2学期期末試験結果②(両学級とも受験者は32名)

	対象学級	比較学級
「地形図読図の問題」部分の平均点(満点10点)	8.1点	7.9点
正答率	81%	79%
「調査方法等の問題」部分の平均点(満点9点)	7.8点	7.2点
正答率	87%	80%

形図を活用したことが学習意欲の向上に有効であったと言える。次に、「調査方法等の問題」部分の正答率は対象学級が87%、比較学級が80%で、ともに高い割合となり、「地域教材」の活用が学習意欲の向上や学力の定着に効果があったと言える結果となった。

V 研究のまとめ

本研究は、社会科地理的分野の身近な地域の調査において、地域の地形図を用いた学習活動や観光等の統計資料の分析活動及び地域での聞き取り調査活動を行うことで、地域の魅力や課題を的確に捉え、さらに、その地域の魅力を広め、課題の解決につながる地域活性化を目指した提案を考えることで社会参画の意欲を高めることをねらうものである。

身近な地域の調査の学習において、金木町内に出向いて行った聞き取り調査活動が順調に進んだことで、地域社会とのコミュニケーションに対する自信が生まれ、地域社会への関心や社会参画への意欲の向上につながった。観光客や地域の方々の考えに触れたことで、地域社会に対して多面的・多角的な見方ができるようになり、生徒自身の思考の広がりや深まりにつながった。さらに、身近な地域を教材にした体験的な学習は学習意欲の向上と学力の定着につながった。また、協働的な学びが、様々な場面の話し合い活動の活発化につながり、社会参画の基礎となるコミュニケーション能力の向上に効果を示した。

VI 本研究における課題

本研究で、聞き取り調査活動が社会参画への意欲の向上に有効であることが確認できた。その一方で、事後アンケートの結果、図1「桜祭り期間に芦野公園の美化活動に参加したいか」の設問で、参加に消極的な生徒が12名いた。図2「五所川原市の広報ごしよがわらを読んでいるか」の設問で、読まない生徒が11名いた。図3「中学生の考えを市長に伝える場に参加したいか」の設問で、参加に消極的な生徒が12名いた。社会参加及び社会参画に消極的な回答をした生徒は、決して授業態度に問題がある訳ではなく、また、社会科に苦手意識をもっている訳ではない。定期テストで高得点を取っている生徒も少なくない。社会参加や社会参画の意欲を高めるために、3学年公民的分野での教材開発や学習方法の工夫が重要である。そして、「身近な地域の調査」の単元は2学年地理分野の最後に位置付けられており、本来は冬の時期に行うことになるため、実際に「野外観察」や「聞き取り調査」などのフィールドワークを実施することは容易ではない。ベネッセ教育総合研究所の『中学校の学習指導に関する実態調査報告書2014』によると、「野外観察」や「聞き取り調査」などのフィールドワークを全く行わない学校は2014年で70.2%になるという。また、西北五地区の2学年担当社会科教師に聞き取り調査を実施したところ、「身近な地域の調査」単元で「野外観察」や「聞き取り調査」などのフィールドワークを実施する予定の学校はなく、パソコンを活用した調査活動等に切り替えるとのことだった。「聞き取り調査活動」が社会参画への意欲向上に有効である以上、社会科の授業の中に位置付けるための工夫が重要である。また、担当教師1名で地域に出かけた学級の全体把握は難しい。今回は学年の教師に支援してもらい2名で分担したが、聞き取り調査などのフィールドワークを実施するためには学校全体の支援体制が必要になってくることも考えておかなければならない。

最後に、社会参画への意欲を高めるためには、社会科の授業だけでなく、総合的な学習の時間や特別活動で、地域社会と関わり、貢献する活動を設定することも大切であると考え。これらの経験を3学年の公民的分野の学習に生かし、さらなる社会参画への意欲を高めていきたい。

<引用文献>

- 文部科学省 2008『中学校学習指導要領解説 社会科編（平成20年9月）』
- 加賀公司 2010『社会参画を視野に入れた「身近な地域の調査」学習』和歌山県教育センター学びの丘研修員研究集録(2010)-5
- ベネッセ教育総合研究所 2014『中学校の学習指導に関する実態調査報告書2014 3 社会科学習指導（社会科教員調査）』, p28